

科目名称	老年看護学実習	学年学期	単位数	時間数
		3 学年 全期	2	90
担当教員	栗林 のり子	授業に関わる 実務経験	☒ 有 (看護師) ☐ 無	

【1】 授業概要

高齢者の加齢に伴う日常生活上の健康問題と、健康障害をもった老年期にある対象者とその家族を総合的に理解し、看護を实践する基礎的能力を養い、保健・医療・福祉の連携における看護者の役割を理解するとともに、自己の老年看護観を発展させる。

【2】 学習目標

1. 高齢者の療養生活の場を理解するとともに、安全管理・感染予防について学ぶことができる。
2. 高齢者の特徴を理解し、対象にあったコミュニケーション方法を実践し、尊重したかかわりができる。
3. 看護過程の展開をととして、老化に伴って起こる疾病・障害を理解し、QOLの向上を考えた援助ができる。
4. 高齢者の生きがいや特徴、状態を把握し、レクリエーションや気分転換の方法を考え、実践できる。
5. 高齢者とその家族の支援にかかわる、保健・医療・福祉における関係職種・機関との連携・協働について学び、看護職の役割について考えることができる。
6. 臨地実習をととして老年看護に関する考えを深めることができる。
7. 看護者の倫理綱領および本校の倫理綱領に基づいた行動がとれる。

【3】 第2看護学科ディプロマポリシーとの関連性

- ☐ 1. 生活者としての人間を統合された存在として多角的に捉えることができる。
- ☒ 2. 人間の生命、人間としての尊厳及び権利を尊重した判断および行動をすることができる。
- ☒ 3. 人々の多様な価値観を認識して、専門職業人としての共感的態度および倫理に基づいた看護実践をすることができる。
- ☒ 4. 看護の対象となる人々の健康状態を判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。
- ☒ 5. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種の連携・協働を図り調整的役割を果たすことができる。
- ☒ 6. 松山市および愛媛県周辺の地域医療への理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる。
- ☒ 7. 自己の資質向上のため、看護に対する探究心・向上心をもち、主体的に学び続けることができる。

【4】 授業計画

	内容	主な授業形態
1 週 目	1 人の老年期の患者を受け持ち看護過程の展開を行う。 コミュニケーションや看護援助をととして患者と良好な関係を築く。 各アセスメントツールを用いた診断。 ゴードンの 11 の機能的パターンの枠組みを基に情報収集及びアセスメントを行い、NANDA-Iを用いて看護診断を行う。	臨地実習
2 週 目	1 人の老年期の患者を受け持ち看護過程の展開を行う。 NANDA-Iを用いて看護診断を基に看護計画を立案し、実施する。 実習グループで 1 事例をとりあげ、症例カンファレンスを行う。 吸引、経管栄養など受け持ち患者以外でできる習得すべき看護技術経験を行う。 ヒヤリ・ハットカンファレンスを行う。 病棟の多職種カンファレンスに参加する。	
3 週 目	1 人の老年期の患者を受け持ち看護過程の展開を行う。 看護計画に基づき、実践し、評価、修正を行う。 病棟の多職種カンファレンスに参加する。 看護目標の達成度を評価する。	

【5】 評価方法

ルーブリック評価を用いた評価規準に基づき、各目標の達成度を評価する。(実践・態度・記録)60 点以上を合格とする。

【6】 教科書

北川公子他:老年看護学,医学書院

T-ハザー・ハートマン編:NANDA-I 看護診断-定義と分類, 医学書院

【7】 参考書

藏谷範子:関連図の書き方をマスターしよう,サイオ出版

山田律子編:生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図,医学書院

金川克子監: 老年症候群別看護ケア関連図&ケアプロトコル, 中央法規
東風平智江美, 田村正枝: 疾患別/看護ケアのための病態関連図, 医学芸術社
亀井智子: 根拠と事故防止からみた老年看護技術, 医学書院
黒田裕子: 入門・看護診断—看護診断を使った看護計画の立て方改訂版, 照林社
工藤綾子・湯浅美千代編: エビデンスに基づく老年看護ケア関連図, 中央法規
矢島妙子: 老年看護全部ガイド, 照林社
任 和子: 個別性をふまえたアセスメントができる老年看護過程, 照林社
森田真帆, 伊藤美栄: 成人・老年看護実習クイックノート, 照林社
岡本充子, 西山みどり: 高齢者看護すぐに実践トータルナビ改訂 2 版, メディカ出版

【8】受講生へのメッセージ

3 週間じっくり看護過程の展開を実践することができます。